

生活保護基準下げないで

新潟・三重で審査請求

新潟県315人

生活保護引き下げに
対する不服審査請求で
20日、新潟県内の31
5人が県に引き下げの
取り消しを求める集団
審査請求をしました。

かけたもの。
50人が出向いた審査
請求で、渡辺和子県生
連会長が「審査請求書
はためらい、不安、葛
藤を乗り越えて皆さん
が書いたもの。実態を
真摯（しんし）に受け
止め公正な判断を」と
述べて請求書を提出し

ました。
審査請求に先立って
開かれた集会には、70
人余りが参加しまし
た。大澤理尋「新潟生
存権裁判」弁護団長は
「なんとしても悪政の
流れを止めるために、
ともに頑張ろう」と訴
えました。

吉田松雄同事務局長
は、政府とマスコミが



審査請求者が実
態と決意を語った
集会。20日、新潟市

行っている生活保護バ
ツシングを乗り越え、
権利としての生活保護
制度を自覚して立ち上
がった画期的な運動だ
と強調。9月末の法定
期限までに、さらに請
求者を増やそうと訴え
ました。

3000円も下げら
れ、これ以上節約する
ところが無い。年寄り
に死ねというものだ」
などと訴えました。

会や「生活保護基準引
き下げにNO! 全国
争訟ネット」に加わる
弁護士の呼びかけに
応じたもの。
20日に津市内で開か
れた生存権裁判を支援
する三重の会準備会
は、不服審査請求の取
り組みが各団体から報
告されました。報告に
よると、松阪市では22
人、津市では13人が生
活保護の呼びかけで市に
集団で審査請求を行っ
ています。桑名市では
日本共産党の星野公平
市議が個々の受給者に
働きかけて計6人の審
査請求に立ち会いまし
た。

「受給者が審査請求
に立ち上がるのはたい
へん勇気のいること」
などの声も出され、ひ
きつづき粘り強く支援
を進めていくことが話
し合われました。

津生健会の後藤照生
氏は「過去に母子加算
の問題などもありま
したが、これだけの人
が審査請求に立ち上
がったのは三重県で
は画期的。それだけ怒
りが大きいということ
です」と話していま
す。